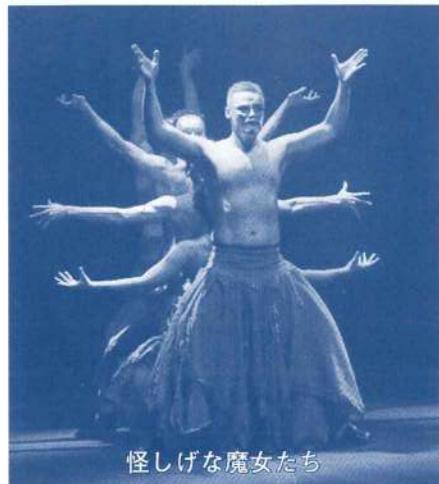


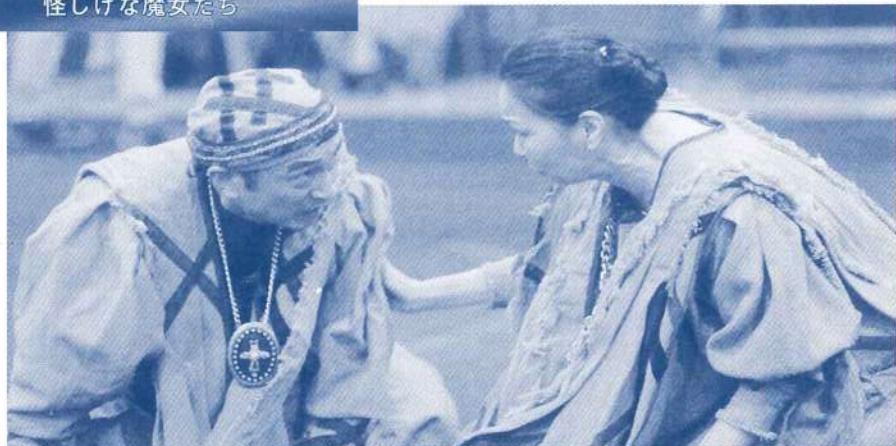
岡山市民劇場 第486回例会

「ロミオとジュリエット」「ハムレット」に
並ぶシェイクスピアの傑作！ 必見!!



怪しげな魔女たち

「悪は善、善は悪」



能登 剛さん(左)と奥山美代子さん

制作：横川功 聰
舞台監督：相川
音響：A・ロップホフ
演出補：O・レウシン
照明：鶴飼史郎
演出：佐藤守
翻訳・通訳：コーディネート
音響：A・ロップホフ
演出補：O・レウシン
照明：鶴飼史郎
演出：佐藤守
翻訳・通訳：コーディネート

主なスタッフ

マクベス……………能登剛
マクベス夫人……………奥山美代子
(文学座)
バンクオー……………豊泉由樹緒
フリー・アンス……………三代陽輔
ダンカン……………島英臣
マルコム……………大塚航一朗
マグダフ……………南保大樹
マグダフ夫人……………岸並万里子
魔女……………M・インチン
ほか

主なキャスト

あらすじ

魔女たちの予言通りマクベスは、戦いの功績によりコーカーの領主に。夫人にことの成り行きを話すと「それは予言よ…きっと運命がそう約束したの」とマクベスをあおり、後押しするのだった。そして、悲劇は始まる…。

魔女たちは「マクベスはコーカーの領主となり、やがて国王になる運命にある」と予言する。そして「悪は善、善は悪！」と口にしながら消えて行った。

●岡山市民会館

10月28日(木) 6時45分
29日(金) 12時30分

●岡山市民文化ホール

10月30日(土) 3時30分
31日(日) 2時
11月1日(月) 1時

★今回は会場が分かれています。気をつけて！

■西大寺市民劇場例会

●西大寺公民館大ホール
10月22日(金) 6時45分
23日(土) 1時

※上演時間= 2時間45分(予定)

シェイクスピアへの新しい扉を開く！

世界中のどんな演劇作品も、すべてシェイクスピア作品に帰結すると言われるほどの天才劇作家シェイクスピア。彼は1564年に生まれ、1592年に劇作家として認められます。その後21年間に37作品を書き、詩人としても名声を得ました。

心をつかむストーリーと、名言の散りばめられたせりふが魅力の作品は、喜劇・悲劇・歴史劇・ロマンス劇などのジャンルに分けられます。4大悲劇（ハムレット）『オセロ』『リア王』『マクベス』は特に有名です。とりわけ『マクベス』は全作品の中で3番目にストーリーが短く、人間の心の闇や葛藤を速いテンポで掘り下げ、せりふの完成度は高く評価されています。

シェイクスピア劇は「せりふが多くて難解だ」と思

う人も、「心配ご無用！」

『マクベス』は分かりやすく、ドラマチックでスピーディ

一な展開なのです。400年以上前に書かれた傑作。今もなお、演劇や映像などで上演され続けています。今回は、V・ペリヤコヴィッチ（2016年没）の大膽で斬新な演出によって、さらに衝撃的で、躍動感あふれる舞台となっています。彼の最後の作品となりました。この例会が、シェイクスピアへの新しい扉を開いてくれるかもしれません。

（國富 美由紀）

で、静でいうと、こんなに「動」の舞台は初めてだったのに驚きました。役者は大変だつたと思います。最後まで緊張感を維持して、観る者を飽きさせない演出と演技に感動しました。

★何と言つても幕開きで度肝を抜かれました。場内が一瞬真っ暗になると、大音響とともに赤い照明に浮かび上がった数人の異形の者たち。上半身裸で、後ろ頭に仮面を着けて動く。なんとも不気味。それが森の魔女たちだと分かる。「すつ

1957年黒沢明監督による「蜘蛛巣城」は「マクベス」を題材にし、日本の戦国時代に置き換え、三船敏郎主演で映画化された。

岡山市民劇場では、1979年俳優座（マクベス：加藤剛）、1982年仲代

プロジェクト（マクベス：仲代達矢）で例会に迎えて

◆「マクベス」豆知識◆

度肝を抜かれる幕開き！ 息もつけないほどの面白さ！

（神戸演鑑、長崎市民劇場ほかの感想文）



★マクベスとマクベス夫人の罪悪からの狂気がものすごい勢いで感じられ、心に突き刺さりました。4枚の回転扉が動きをスピーディーに迫力あるものにしていました。音楽と光、そしてテンポのある役者たちが思つより繊細で脆弱で善良なのかもしません。

★面白かった！ロシア人の役者たちの身体表現は悪、悪は善」という名言、「マクベスの弱さや狂気、能登さんが見事に演じていました。

★ベリヤコーウィッチの遺作となってしまったけど、彼の演出の迫力を満喫！すごいです。シェイクスピア劇の独特のせりふ回しが苦手な私でもよく分かりました。佐藤史郎さんの翻訳が良いのかな。15分の休憩を含めて2時間35分の上演時間もグッド。あまりの面白さに、息もつかず、集中して観ていました。

★思い切って観る時間を作つたのは大正解！想像力を募らせ、舞台に引き込まれていく自分に気が付きました。こんなに面白く観た。これがシェイクスピア作品を観られるとは。もう一度観たがつた！

★勇敢な戦士が、降つて湧いたような野心に踊らされた。臆病な暴君になっていくのが哀れでした。美しく氣働きのできる妻が狂うのは、自らの残忍さに耐えかねたのでしょうか。人は自分が思つより繊細で脆弱で善良のかもしません。

★面白かった！ロシア人の役者たちの身体表現は悪、悪は善」という名言、「マクベスの弱さや狂気、能登さんが見事に演じていました。

★ベリヤコーウィッチの遺作となってしまったけど、彼の演出の迫力を満喫！すごいです。シェイクスピア劇の独特のせりふ回しが苦手な私でもよく分かりました。佐藤史郎さんの翻訳が良いのかな。15分の休憩を含めて2時間35分の上演時間もグッド。あまりの面白さに、息もつかず、集中して観ていました。

★思い切って観る時間を作つたのは大正解！想像力を募らせ、舞台に引き込まれていく自分に気が付きました。こんなに面白く観た。これがシェイクスピア作品を観られるとは。もう一度観たがつた！